

平成 2 9 年 度

公立大学法人 業務実績評価書

平成 3 0 年 8 月

福岡県公立大学法人評価委員会

# 目 次

<b>年度評価の考え方</b>	-----	1 ページ
<b>各法人の評価</b>		
<b>1 公立大学法人九州歯科大学</b>		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
<b>2 公立大学法人福岡女子大学</b>		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
<b>3 公立大学法人福岡県立大学</b>		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

# 年度評価の考え方

## 1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）ごとに、中期目標

- ・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。

1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

## 2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。



# 公立大学法人九州歯科大学

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、最終年度を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療関係者に対して、リカレント教育を行うとともに、地域医療関連病院等との連携を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成29年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
  - ・ 歯科医学教育センター主導で、プロフェッショナリズムの醸成をカリキュラムの中に位置づけ、歯学概論科目や学外宿泊研修、早期登院実習などの初年次教育の充実を図っている。
  - ・ 他職種連携の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の合同講義などを実施するとともに、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験のトライアルを実施するための体制を整備した。
  - ・ I R室で学生データを深く分析し、個別に指導する体制を強化するとともに、歯科医師国家試験分析室を設置し、歯科医師国家試験合格率が全国29大学中5位と高水準であったことを評価する。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成
  - ・ 口腔保健学専攻修士課程について、入学定員充足率を充たすとともに、修士課程修了者が歯学専攻博士課程へ進学するなど、人材の育成を進めている。
  - ・ 大学院医歯工連携教育協定に基づき、4大学間で単位互換を実施し、共同教育を推進している。
- (3) 教員の教育力の向上
  - ・ ファカルティ・ディベロップメント部会、一般スタッフ・ディベロップメント部会、医療系スタッフ・ディベロップメント部会を設置し、受講対象者別に効果的な研修を行うとともに、学生及び教員による授業評価を実施するなど、教育活動の改善に努めている。

(4) 適性のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義の実施などの高大連携に取り組むとともに、高校訪問、オープンキャンパス、施設見学会等の入試広報活動を積極的に実施し、歯学科、口腔保健学科ともに志願倍率が目標を上回った。

(5) 学生への支援

- ・教職員が一体となって、きめ細かな学生支援を実施するとともに、キャンパスライフ・ガイダンスや保護者説明会等を開催している。
- ・就職支援実施会議により、多彩な就職先を見学する機会を作るとともに、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、口腔保健学科において、引き続き就職率100%を達成した。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

## 3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「口腔保健・健康長寿推進センター」において、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障害や全身疾患がある患者の口腔機能向上に関する実践的教育を実施するとともに、全国各地の関連セミナーで講演を行うなど、リカレント教育の充実を図っている。

- ・海外大学との学術交流や短期留学生の受入れが大きく増加したことや、海外学生短期派遣プログラムを正規の選択科目として実施し、海外の大学に学生を派遣していることを評価する。
- ・幼稚園、老人クラブ等で歯科口腔保健に関する講演や相談を実施し、子育て支援や高齢者の健康増進に資する普及・啓発を行っている。
- ・九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施した。

#### 4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属病院に診断科を新設し、患者や学生にとって診断から治療の流れを分かりやすくする診療体制へ改編するとともに、電子カルテシステムの導入により、診療事務の効率化や診療科間の連携化、臨床教育の充実を図っている。
- ・地域医療関連病院等との連携を拡充し、高齢者を中心とした口腔医療を訪問診療で提供するなど、地域包括型歯科医療連携体制を整備したことを評価する。

#### 5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・歯科診療所では対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数が目標を上回った。



## 6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学機関別認証評価の評価結果を踏まえ、自己評価部会の位置づけと活動内容を明確化するとともに、教職連携会議において課題を確認するなど、大学運営の改善に向けた取組を行っている。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。



# 公立大学法人福岡女子大学

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、最終年度を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、社会貢献）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（研究、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、国際的な学習環境を提供するために、海外有力大学との交換留学や語学研修への学生派遣、外国人留学生の受入れを積極的に行うとともに、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成29年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

教育については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組が多く認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

#### (1) グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育

- ・クォーター制の導入に向けたカリキュラムの見直しや文理統合科目群の設定を行うとともに、新たな副専攻プログラムを設定するなど、履修システムの充実を図った。
- ・学術英語プログラムやアドバンスト・イングリッシュ等の充実を図り、英語教育を強化するとともに、言語・文化を主体的に学ぶランゲージカフェを9言語で開催している。
- ・新たな短期海外学習派遣プログラムを実施するなど、国際的な学習環境の充実に積極的に取り組み、交換留学、語学研修、体験学習等の海外派遣学生数が目標を大きく上回ったことを評価する。
- ・企業や公共機関等と連携したサービスラーニングを実施するとともに、新たに長期学外学修プログラムを開設するなど、実践的な能力を培う体験学習の充実を図っている。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での全寮制教育において、英語活動や国際交流活動の企画・運営、テーマ別の地域交流活動などに学生が主体的に取り組んでいる。

#### (2) グローバル社会の課題に対応した各学科の教育

- ・卒業研究について、卒論執筆に関する綿密な指導や、口述試問、卒業研究発表会等を実施するなど、学生の思考力、課題解決能力を高めさせるとともに、卒業論文の審査には副査制度を設けるなど厳密な評価を行っている。

(3) 大学院教育

- ・人文社会科学研究所（博士前期課程）及び人間環境科学研究科（博士前期課程）に引き続き、人文社会科学研究所（博士後期課程）及び人間環境科学研究科（博士後期課程）を開設し、教育研究の充実を図った。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・ファカルティ・ディベロップメントに係る研修を体系化し、計画的に実施するとともに、学生による授業評価結果のフィードバックや公開授業などを行っている。

(5) 意欲ある学生の確保

- ・志願者の利便性を向上するため、インターネット出願を導入するとともに、高校訪問、出前講義、オープンキャンパス等の入試広報活動に積極的に取り組み、一般入試辞退率が低くなったことを評価する。

(6) 学生支援の充実

- ・学術情報センターにおいて、図書館システムの充実や、企画展示、図書の寄贈受入れを行うなど、学習研究活動を支援するとともに、メンタルヘルス等の支援体制の充実を図っている。
- ・企業訪問や就職対策講座、個別指導等を実施し、新規卒業生全体の就職率が過去最高を達成するとともに、外国人留学生の就職率が引き続き100%となったことを評価する。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」による研究者ネットワークを構築し、国際共同研究を推進するとともに、加盟大学の学生と教員が国際教育プログラムに参画するなど、包括的学術交流が活性化していることを評価する。
- ・科学研究費補助金の申請件数、新規獲得率ともに目標を上回っており、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

### 3 社会貢献

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げられる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」など、階層に応じた女性のキャリアアップ支援のための実践的教育プログラムを実施していることを評価する。
- ・地域連携センターにおいて、東部地域大学連携による地域振興や学生ボランティア活動の支援、留学生と地域との国際交流など、地域との交流・連携を推進し、地域交流件数が目標を上回った。
- ・出前講義やイングリッシュ・キャンプを開催し、小中高との教育連携を推進するとともに、参加型生涯教育授業「生涯学習カレッジ」や「福岡女子大学美術館アートマネジメントアドバンス講座」を開講するなど、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」を契機とする国際共同教育プログラム「EAT」により、海外大学との教職員交流及び学生交流を促進するとともに、若手教員の海外トレーニングプログラムの開発を進めた。
- ・短期受入留学生数や留学生をサポートする日本人学生（JD-Mates）の登録者数が目標を大きく上回るとともに、私費外国人受入留学生の受け入れ国の多様化が進んでいることを評価する。
- ・留学フェア等在校生の海外志向を高める取組を実施するとともに、危機管理体制を強化し、目標を上回る学生の海外派遣につながった。
- ・九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施するとともに、被災地支援ボランティアに参加した。

### 4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、全学スタッフ・ディベロップメント研修や若手プロパー職員の自主企画による先進他大学調査を実施するとともに、外部研修会への職員派遣を行った。

## 5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を大きく上回る収入実績をあげていることを評価する。

## 6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、スマートフォンからの閲覧などを容易にするためのホームページ改修を行った。





# 公立大学法人福岡県立大学

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、最終年度を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、社会貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成29年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的には年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

#### (1) 教養教育の充実

- ・全学横断型教育プログラム関連科目として、新たに4科目を開講するとともに、スキルアップゼミを実施するなど、教養教育の充実を図っている。

#### (2) 専門教育の充実

- ・人間社会学部において、公認心理師受験資格及び幼稚園教諭養成課程の再課程認定に係るカリキュラム改変を行うとともに、看護学部において、新カリキュラム策定部会を立ち上げるなど、専門教育の充実を図っている。
- ・人間社会学研究科において、公認心理師受験資格に係るカリキュラム改変を行うとともに、子ども教育専攻を開設するなど、大学院教育の充実を図っている。
- ・実践型インターンシップとして他大学と連携プログラムを実施するとともに、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を構成する9大学間で単位互換などを実施し、大学間の相互連携による教育の充実を図っている。

#### (3) 教育効果を検証するシステムの構築

- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持していることを評価する。

#### (4) 教員の教育能力の向上

- ・授業参観ウィークの導入や授業自己評価・対応プランの作成、ドイツにおける専門職養成教育を学ぶブラッシュアップセミナーの開催など、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

(5) 優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、高校訪問等、入試広報活動に積極的に取り組み、入試辞退率が低くなっている。

(6) 学生支援の充実

- ・系統的キャリア形成支援講座や段階的インターンシップ・プログラムなど、きめ細かなキャリア形成支援に努めるとともに、GPA制度を活用した個別の学習支援を行っている。
- ・経済的理由により修学を継続することが困難な学生に対し、福岡県立大学特別奨学金による支援を行った。
- ・学内施設を改修し、新たに男子学生寮を整備した。

(7) 学習環境の充実

- ・図書館セミナーや学生選書ツアーを開催するなど、学生が利用しやすい環境づくりを進め、ラーニングコモンズ利用者数や開館延長時間内の利用者数が目標を上回った。

(8) 人間社会学部の改革

- ・保健福祉情報教育プログラム及びキャリア形成支援プログラムについて卒論に至るカリキュラムを作成するとともに、保健福祉情報教育プログラムのゼミを開設するなど、全学横断型教育プログラムの充実を図った。

(9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・改革推進会議で検討を進めているが、博士課程構築の方向性について結論に至っていない。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率及び獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

### 3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・協定締結校との文化・学術交流事業や短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流を推進するとともに、受入留学生数が目標を上回った。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、サポーター派遣人数や登校開始率が過去最高を達成するなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行うとともに、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施したことを評価する。
- ・地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を実施し、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が計画を大きく上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援していることを評価する。
- ・九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施した。

### 4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・九州北部豪雨発生時に危機管理マニュアルに基づき適切な対応を行うとともに、学内の防犯カメラを増設するなど、安全対策の強化を図った。

## 5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。  
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・週休日の振替を徹底するなど、時間外勤務が前年度より縮減された。

## 6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、プロモーションビデオ（国際版）を制作するなど、広報活動の充実を図った。